






レギュラーブームスタンド

品番	特徴	高さ	ブーム長	重量	
21021	210/2の高さとブームの長さを増やしたもの。ドラムのオーバーヘッドやピアノボーカルなどがセットしやすくなっているが、その分重い。 1,120～2,010mm 1,065mm 5.7kg				
210/6	210/2のアップデート版で、足の付け根の部分とブームを支える部分に変更され、重量も少し減っている。ブームの長さが短くなっているためか、あまり普及はしていない。 925～1,630mm 805mm 3.0kg				
210/8	210/6のブームを259のように2段構えにしたもの。いわゆるショートブームという形態だが、210/9の方が一般的。 925～1,630mm 425～725mm 3.0kg				
210/9	ストレートスタンドの201A/2に211/1というブーム部分のパーツを組み合わせたもの。259のブーム部分と同じような感じだが厳密には異なる。(211/40) ショートブームと呼ばれ、ドラムのタムなどのセットにちょうどよい高さでブーム長さになるため、PA会社によってはよく使用する。 900～1,605mm 460～770mm 3.2kg				
21060	210/6を灰色のソフトタッチパウダー塗装にしたもの。210/6自体があまり使われていないので、同様にほとんど目にしない。 925～1,630mm 805mm 3.0kg				
21080	210/8を灰色のソフトタッチパウダー塗装にしたもの。これもほとんど目にしない。 925～1,630mm 425～725mm 3.0kg				
25600	210/6のブームをロックする部分を回しやすいように改良したもので、ひとまわり大きく210のような使い方もできる。 970～1,640mm 600～955mm 3.4kg				

Chapter 2 マイクスタンドとケーブル

この状態で、ブームの角度を決めるハンドルを反時計回りに半回転ほどさせてゆるめておき、軸の筒型のねじを反時計回りに半回転ぐらいゆるめる。



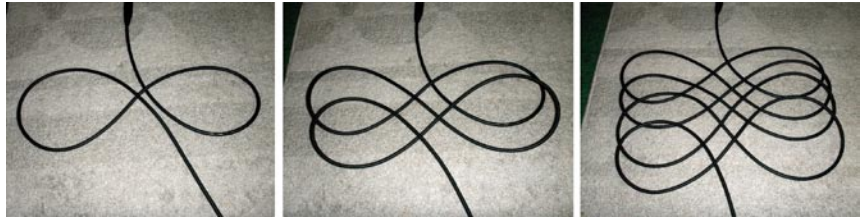
軸の部分の少し持ち上げて、リングねじを時計回りに締めて、軸との間に隙間がない状態にする



次に軸の部分と同じく時計方向に回し、ブーム部分としっかり固定する。

次にブーム部分を固定するねじを軽くゆるめ、同じように先端部分のリングねじを時計回りに締める。



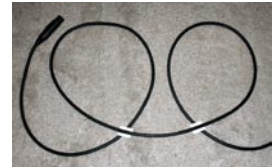


さて先ほどの地8でAの部分を持ってBの上に置くと、ひとつの輪のようになる。これを繰り返していくのが通常のマイクケーブルの巻き方だ。



これを8の字を作らずにやると、下ののように最初の輪は上に重ねるように作って、次の輪は下をくぐらせるように輪を作ることを繰り返すわけだ。(実際には輪っかとは同じ場所に作る。)

ただマイクケーブルをいちいち床においているのは面倒で仕方ないので、これを手で持った状態で巻いていく。これが一般的にいわれる8の字巻きで、地8に対して「手8(てはち)」と呼ばれることもある。



それではマイクケーブルを巻いてみよう。

- 1 まず左手にメス側のコネクタを持ち自分から遠い方にコネクタを向ける。以後左手はケーブルを受け取るだけなので指以外動かさない。
- 2 右手でケーブルを手前に回すように輪を作る。(フライパンを振るような動き)
- 3 その輪をそのまま左手に渡す。
- 4 つぎに右手がケーブルの下になるように右にひねりながら(五木ひろし or サイドスローのような動き) 輪を作る。(ここが一番難しい)

